

平成28年度全国学力・学習状況調査

概 要

平成28年4月19日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。

この調査の目的は、以下のとおりです。

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことをご理解ください。

実施の状況

(1) 調査の対象 小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒

(2) 調査内容 ①教科に関する調査

国語、算数・数学の2教科

国語及び算数・数学については、A・B2種類の調査がある。

A・・・主として「知識」に関する問題

B・・・主として「活用」に関する問題

②質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

教科に関する調査結果

【調査結果の見方】

◇「町平均」の数値は、平成28年度全国学力・学習状況調査において、猪名川町内の小学校6年生と中学校3年生それぞれの児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

◇「全国平均」の数値は、平成28年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の公立小中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

◇分析の基準

「町平均」と「全国平均」との比較に関しては、以下の基準で表現しています。

平均正答率を全国と比較

・+5.0ポイントより高い → 「上回る」「良好である」等

・-5.0ポイントより低い → 「下回る」「課題がある」等

・±5.0ポイント以内 → 「±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない」

猪名川町の児童生徒は、国語、算数・数学ともに、今回出題された学習内容をおおむね理解しているものの、全国の傾向と同様に、「知識」に比べて「活用」（知識や技能を活用する力、応用力）にやや課題が見られます。

【小学校】6年生

教科	町平均正答率	全国（公立） 平均正答率	全国との差
国 語 A	73.2	72.9	+0.3
国 語 B	55.5	57.8	-2.3
算 数 A	79.7	77.6	+2.1
算 数 B	45.7	47.2	-1.5

国語A（知識）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む」問題（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）の正答率が全国を上回っている。一方、「目的や意図に応じて、書く事柄を整理する」問題（書くこと）に課題がある。
国語B（活用）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない。 ・「話すこと・聞くこと」の領域が全国を下回り、課題がある。 ・設問別に見ると、「目的に応じて質問したいことを整理する」問題（話すこと・聞くこと）に課題がある。
算数A（知識）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「少数の割り算で、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く」問題、「少数の除法の計算をする」問題、「分数×整数の乗法の計算をし、約分する」問題（以上、数と計算）や、「直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ」問題（図形）の正答率が全国平均を上回り、良好である。
算数B（活用）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「縦にかくことができる正方形の数を求め、24個の正方形をかくことができる理由を記述する」問題（数と計算）、「単位量当たりの大きさを求めるために、他に必要な情報を判断し、特定する」問題（量と測定、数量関係）の正答率が全国を下回り、課題がある。

【中学校】3年生

教科	町平均正答率	全国（公立） 平均正答率	全国との差
国 語 A	76.3	75.6	+0.7
国 語 B	68.7	66.5	+2.2
数 学 A	68.0	62.2	+5.8
数 学 B	48.7	44.1	+4.6

国語A（知識）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「語句（白羽の矢が立つ）」の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかを問う」問題、「辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える」問題（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）の正答率が全国を上回っている。しかし、「文字の形や大きさ、配列に注意して書く」問題、「歴史的仮名遣い（追ひし）を現代仮名遣いに直して読む」問題（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）の正答率が全国を下回っている。また、全国と同様、「文脈に即して漢字（<u>独創的</u>）を正しく書く」問題の正答率が低く、課題がある。
国語B（活用）	・調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない（各領域とも）。 ・設問別に見ると、「文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書く」問題（書くこと、読むこと）や、「文章の構成を捉える」問題（読むこと）、「本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」問題（書くこと、読むこと）の正答率が全国を上回っている。正答率が全国を下回った設問はなかったが、全国と同様、「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」問題（書くこと、読むこと）に課題がある。
数学A（知識）	・調査結果は、全国を上回っており、良好である。 ・4領域のうち、「数と式」「関数」の2領域において全国を上回っている。 ・設問別に見ると、「分数と少数の乗法の計算をする」問題や、「整式の加法と減法の計算をする」問題、「具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて目的に応じて変形する」問題、「簡単な一元一次方程式を解く」問題、「具体的な場面に場面における数量の関係を捉え、比例式をつくる」問題、「2つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り、2つの二元一次方程式で表

数学A（知識）	す問題（数と式）、「対称移動した図形をかく」問題（図形）等において、全国を上回っている。しかし、「垂線の作図の方法について理解しているか」を問う問題（図形）については、全国と同様、正答率が低く、課題がある。
数学B（活用）	・ 調査結果は、±5ポイントの範囲内にあり、全国と大きな差は見られない。 ・ 4領域のうち、「数と式」「関数」の2領域において全国を上回っている。 ・ 設問別に見ると、「平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求める」問題や、「多角形の外角の和について、正しい記述を選ぶ」問題、「証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選ぶ」問題（図形）、「一次関数の式から変化の割合を求める」問題、「一次関数の事象を式で表す」問題、「一次関数のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求める」問題（関数）等において、全国を上回っている。しかし、全国と同様、「測定値が与えられた場面において、近似値と誤差の意味を理解しているか」を問う問題（資料の活用）には課題がある。

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果

基本的な生活習慣、学習に関する関心・意欲・態度、家庭でのコミュニケーション、規範意識など85の項目について調査が行われました。

この調査の結果は、以下のとおりです。

なお、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、全国平均と比べて+5.0ポイントより高いものを「肯定的な回答が多かった質問」、-5.0ポイントより低いものを「肯定的な回答が少なかった質問」として挙げています。

【小学校】

「算数への関心」が高い。

「総合的な学習への関心」「規範意識」「学習習慣」についての評価が低い。

肯定的な回答が多かった質問

- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
- ・「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」
- ・「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」（「その場で先生に尋ねる」と答えた児童の割合）

肯定的な回答が少なかった質問

- ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」（「1時間以上」と回答した児童の割合が少なく、「30分未満」と答えた児童の割合が多い）
- ・「土・日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師含む）」（「1時間以上」と回答した児童の割合が少なく、「全くしない」と答えた児童の割合が多い）
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」（「10分以上」と回答した児童の割合が少ない）
- ・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」
- ・「家で、学校の授業の予習をしていますか」
- ・「家で、学校の授業の復習をしていますか」
- ・「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」
- ・「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」
- ・「『総合的な学習の時間』は好きですか」
- ・「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

- ・「5年生までに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業の最後に学習活動を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」
- ・「5年生までに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」
- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」
- ・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」
- ・「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」

【中学校】

「数学への関心」についての評価が高いが、「国語への関心」についての評価が低い。
「規範意識」についての評価が高い。

肯定的な回答が多かった質問

- ・「自分には、よいところがあると思いますか」
- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」
- ・「普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか」
（「午後11時より前」と回答した生徒の割合が多い）
- ・「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」（「1時間より少ない」と回答した生徒の割合が多い）
- ・「家で、学校の宿題をしていますか」
- ・「あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めていると思いますか」
- ・「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」
- ・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」
- ・「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」
- ・「『総合的な学習の時間』の勉強は好きですか」
- ・「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」
- ・「授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか」

(「先生に尋ねる」と回答した生徒の割合が多い)

- ・「今回の国語の問題の中の解答を文章で書く問題で、最後まで解答を書こうと努力しましたか」
- ・「数学の勉強は好きですか」
- ・「数学の授業の内容はよく分かりますか」
- ・「数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」
- ・「今回の数学について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか」

肯定的な回答が少なかった質問

- ・「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか（勉強のための時間は除く）」
(「2時間以上」と回答した生徒の割合が多い)
- ・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしめますか」
(「10分以上」と回答した生徒の割合が少ない)
- ・「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」
- ・「1、2年生のときに受けた授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」
- ・「1、2年生のときに受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」
- ・「1、2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか」
- ・「読書は好きですか」
- ・「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」
- ・「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」

その他

- ・学習塾に通っている（家庭教師を含む）生徒の割合
猪名川町：68.8% 全国：61.1%

猪名川町の学力向上の取組について

猪名川町教育委員会では、学力向上に特化した施策として策定した「いなぼう学力アッププラン（猪名川町学力向上プラン）」（平成28年4月施行）に基づき、子どもたち一人一人の学力を確実に身に付けさせる「一人も見捨てない教育」を推進しています。また、今回の調査結果や過去の調査結果を基に、猪名川町の児童生徒の学力向上のため、継続的な検証改善に努めてまいります。

①いなぼうチャレンジ オンライン学習（平成28年度新規）

様々な事情により、家庭学習が不十分なため、学力が定着しない児童生徒が少なからずいます。学校外における学習環境の不均衡を緩和し、自主的に学ぶ姿勢を身に付けさせて児童生徒の進路を保障するため、町内全中学校の生徒を対象に、オンライン学習サービス（いなぼうチャレンジ オンライン学習）を導入しています。各家庭等においてパソコンやタブレット端末などを使用した家庭学習に取り組むことができます。

また、インターネット環境が整っていない生徒や学習につまずきのある生徒を対象として、放課後等の時間帯に学校へオンライン学習指導員を派遣し、オンライン学習の支援を行い、学力の底上げに取り組んでいます。

②学校ICT整備事業（拡充）

児童生徒の学習意欲を高めるため、授業づくりに有効な学校ICT機器として、小・中学校の教室に電子黒板機能付き大型ディスプレイ（テレビ、プロジェクター）、実物投影機、指導用タブレット端末を配備し、活用しています。

ICTを活用し、児童生徒にとって分かりやすく学習意欲の高まる授業を実施するとともに、児童生徒が電子黒板を活用して意見交換や発表をするなど、互いに高め合う学びを通じて、思考力・判断力・表現力などの育成を図ります。

また、効果的な活用のための研修・研究を推進し、子どもたちが学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業を実践します。

③いなぼう学習タイム ～ 放課後の補充学習における学習サポーター派遣事業 ～（拡充）

小・中学校の児童生徒の学力向上に向けて、小学校においては国語・算数、中学校においては国語・数学・英語の各教科の基礎・基本の定着に課題のある児童生徒への個別の学習支援が必要と考えています。

このことから、小・中学校を対象に、放課後における補充学習の時間に、「学習サポーター」を派遣し、児童生徒への適切な学習支援を行い、基礎・基本の確実な定着を図っています。

④読書活動の推進（継続・拡充）

全国学力・学習状況調査の分析の結果、「読書活動」の推進が学力向上につながるということが明らかになっていることから、各校における読書活動の更なる推進を図ります。

そのため町立小・中学校全校に学校図書館専任の「学校図書館司書」または「学校図書館支援員」を配置しています。

⑤キャリア教育の推進（継続）

子どもたちが、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するために、幼・小・中学校園の11年間をかけて「キャ

リア教育」を推進します。

また、「なぜ学ぶのか」という意義を、自分の夢や目標、将来像と結び付けてしっかりと認識させ、その実現に向けて努力しようとする態度を培います。

さらに、子どもたちが学ぶことの意義を実感し、将来の生き方を見付けられるよう、子どもたちの内面的な成長を支援して教育活動を推進することにより、目的意識、学習意欲の高揚を図り、学力の定着を目指します。

⑥町学習到達度調査の実施及び活用（継続）

全小5児童（国・算）・中2生徒（国・数・英）を対象に、町独自で学習到達度調査を実施するとともに、調査結果を分析し、学習評価支援システムを有効活用することにより、児童生徒の学力向上を図っています。

また、児童生徒の家庭・学校・地域における生活実態調査を実施し、その結果も併せて分析し、児童生徒の学習支援に役立てます。

⑦町教育委員会による学力向上に係る研究指定の推進（継続）

学力向上に係る研究指定を更に推進するため、町教委として学力向上に係る研究指定の拡充を図っていきます。

「授業のユニバーサルデザイン化推進校」、「ICTを活用した授業づくり推進校」、「学習集団づくり推進校」等

⑧町教育委員会主催 学力向上研修会・講演会の開催（継続）

各校の全国学力・学習状況調査や町学習到達度調査の結果を踏まえて、取組状況を交流しています。そして、本研修会に参加した教員を中心に、各校において組織的に学力向上の取組を推進します。

また、学力向上に係る専門の講師を招へいし、学校・園の教員を対象に学力向上に特化した講演会を開催し、学力向上の方策について研修を深めています。

⑨授業（保育）のユニバーサルデザイン化の推進（継続）

町内全幼稚園、小学校、中学校において、「授業（保育）のユニバーサルデザイン化」を推進することにより、「どの幼児児童生徒も分かる・できる授業（保育）」を目指し、全ての幼児児童生徒の学力向上を図っています。

⑩授業力向上指導改善の推進（継続）

教員の授業力向上を図るために、各校において専門の講師を招へいして、指導助言を受けることにより、授業力のレベルアップを目指します。

また、学校・園からの要請に応じて、幼稚園、小・中学校へ指導主事を派遣し、授業（保育）づくりや教員としての基礎・基本の指導を行うとともに、学力アップにつながる指導法について助言を行います。

⑪町教育支援センターの研修機能の充実（継続）

教員の授業力向上を更に進めるために、町教育支援センター主催で長期休業中などを利用して、授業力向上研修講座を設け、専門の講師から「授業づくりの基礎・基本」についての講話や指導助言を受ける機会を設けるなど、町教育支援センターの研修機能の充実を図ります。

⑫少人数授業・同室複数指導及び小学校における交換授業の推進（継続）

県教育委員会の新学習システムの制度を活用し、少人数による授業・同室複数指導に

よる授業を推進しています。また、小学校においては、中学校での教科担任制への円滑な接続を図るため、5・6年において一部の授業を交換することによる教科担任制を推進しています。

⑬幼・小・中連携の強化（継続）

各中学校ブロックにおいて、幼稚園、小学校、中学校の連携を強化し、11年間を通して学力向上に取り組んでいます。

⑭中学校における教育・心理テスト（Hyper-QU）の実施及び活用の推進（継続）

中学校の全生徒を対象に、年2回「教育・心理テスト（Hyper-QU）」を実施し、その分析結果を基に教職員の研修を行い、学級指導や個別指導に生かしていくことにより、集中して学習に取り組める学習環境づくりに努めています。

⑮学校支援ボランティアの派遣（学校・家庭・地域の連携協力推進事業）（継続）

学生や、地域住民による学校支援ボランティアを学校・園へ派遣し、学習支援を図ります。

各学校においても、学校全体や児童生徒個々の結果を全国や町の結果と比較・分析し、児童生徒の実態把握に努めています。そして、各校においてこれまで取り組んできた教育活動の成果を検証し、全ての子どもにとって分かりやすい授業づくりに努めています。

学力向上のための今後の改善方策について

【猪名川町の学力の課題】

平成28年度全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生対象）結果及び過去数年間の同調査結果、猪名川町学習到達度調査（小学5年生、中学2年生対象）の結果から、猪名川町の児童生徒の学力と学習習慣について、次のような課題があることが判明しました。

- ・活用力に課題がある。（小学校、中学校）
- ・学力低下の傾向が見られる。（小学校）
- ・家庭学習量が全国と比べて少ない。（小学校）
- ・読書量が少ない。（小学校、中学校）

【これまで効果のあった取組】

全国学力・学習状況調査結果及び猪名川町学習到達度調査結果を同一集団内で経年比較した結果、学力向上に特に効果があったのは、次の取組でした。

- ・放課後学習（いなぼう学習タイム）
- ・新学習システムの充実による少人数授業・同室複数指導等、個に応じた丁寧な指導

【今後の改善方策】

以上の結果から、従来の学力向上策に加え、以下の改善方策に取り組み、児童生徒の学力向上に努めていきます。

■授業改善

- ・「アクティブ・ラーニング」の推進
- ・「めあて」「見通し」の提示や、授業の終わりの「振り返り活動」の推進

■家庭学習の定着

- ・宿題の量や出し方の工夫
- ・放課後学習の充実
- ・家庭との連携

■読書活動の推進

- ・学校図書館の充実